

## 第2回古賀市障害者施策推進協議会報告

標題の件について、下記のとおり実施したので、会議録を作成します。

1. 日時 平成26年12月15日(月) 19時00分から20時35分まで
2. 場所 サンコスモ古賀 101会議室
3. 出席委員 出席15名  
会長：佐々木(裕) 副会長：山崎  
委員：荒木、有田、占部、河村、黒木、小峠、佐々木(嘉)、  
鶴原、橋本、檜山、村山、由衛(代理：黒石)、川島  
欠席委員 欠席1名  
委員：大塚

#### 4. 議題

(1)「障がい者福祉プラン・こが」の原案検討

①第1編 序論(案)

②第2編 基本構想(案)

#### 5. 資料

【資料1】第1編 序論(案)

【資料2】第2編 基本構想(案)

#### 6. 議事の概要

事務局より、本題に入る前に、前回の協議会で出ていた前計画(第2期障害者プラン・こが)の課題について説明。その後、25年度古賀市の取り組みの紹介として、障がい者の社会参加を目的とした「職場体験はたらこ〜が事業」についてを説明。

---

#### (1) ①第1編 序論

---

事務局より、障害者施策の歴史から計画策定の経緯を説明の上、第1編序論を読上げ説明。

#### 【質問・意見】

副会長：障がい者の状況のところ、手帳の所持者数の年齢区分について、身体と知的の区分は同じだが精神の年齢区分だけ違うのはなぜなのか。高齢化の問題を考えるとときなどに比較できない。

⇒(回答)

事務局：今すぐに回答はできないが、システムの都合上今回の区分表記になっていると考えられる。年齢構成が同じほうが良いと思うので、システム上可能か確認する。

委員：序論のところ、「そのため」(1、計画策定の背景と趣旨の下から3行目)の前に当事者にとって大きな「障害者権利条約が国会で批准された」ということを入れると重みがあるように感じる。

⇒(回答)

事務局：「そのため」の後のところに権利条約について盛り込みたいと思う。

副会長：一緒に差別を禁止している条例（障害者差別解消法）についても記載して欲しい。

⇒（回答）

事務局：障害者差別解消法についても盛り込みたいと思う。

---

## （２）第２編 基本構想

---

事務局より、基本計画の基本理念、基本方針、施策の体系を説明の上、第１編序論を讀上げ説明。

### 【質問・意見】

委員：第２期の基本理念には「出会うことから始めよう！」というキャッチフレーズがあるが、第３期の基本理念にはキャッチフレーズがない。

第３期では改めてキャッチフレーズをつけるのか。つけるとしたらこの協議会で考えるのか。

⇒（回答）

事務局：以前キャッチフレーズの決定に時間がかかった経緯がある。つけるとしたら、事務局よりいくつか案を提示し、協議していただきたいと考えている。まずはキャッチフレーズをつけたほうがいいのかを協議していただきたい。

委員：計画は内容が硬いのであったほうがやわらかくていいと思う。

委員：最初はつけやすいが、２回目がつけにくい。変えないと進歩していないようで非常に難しい。

小峠さんも言われたように、やわらかくするという点で本当はイラストを入れるなどしてやわらかくもってってもらいたいが、皆さんに受け入れやすくなるのであればつけるものいいのでは。

副会長：以前のキャッチフレーズの根拠は。

⇒（回答）

事務局：第１期のときについたものなので経緯が不明。

副会長：ではその時から変わってないんですね。

⇒（回答）

事務局：１期と２期は同じ。踏襲するという場合もあるし、ずっと同じで進歩がないようにとられる場合もあると思う。

会長：キャッチフレーズは何かあったほうが楽しそうですね。

委員：今のキャッチフレーズの言葉も素敵だとは思いますが、これで３期というのは・・・、文言としては愛くるしいとは思う。

副会長：古賀市はこれと決めるのもいいと思う。

会長：委員の方も良い案があれば提案をお願いします。

⇒（回答）

事務局：次回以降こちらから提示する案で検討してもらいたい。

委員：了解。

委員：インクルーシブ教育システムとあるが、インクルーシブと突然言われても普通の人にはわかりづらいと思うので、語句の説明があったほうがいい。

⇒（回答）

事務局：インクルーシブ教育システムについて説明。わかりにくい言葉については説明を入れる予定としている。

委員：専門家はわかるかもしれないが、専門じゃない人はわからないので是非説明書をお願いしたい。

委員：障害者権利条約の中では「包容する教育制度」という表現がある。

委員：アンケートの結果の色分けしているグラフについて、字も小さくて色分けだとわかりにくい。項目とグラフの該当部分を大きく番号で表記をするなどしてもらえるとわかりやすい。誰に読んでもらうかを考えて表記をしてもらいたい。

副会長：基本方針の部分で、親亡き後のことも含めて、当事者だけでなく家族への支援をどの項目に入れ込むかを考えていかなければならないと思う。

また、アンケート結果について、「仲間がいない」という回答が多く出てくるが、それに対して仲間づくりをどうしていくのか。それから、アンケートの「何に困っているか」というところで、「うまく人と話ができない」という回答が多かったため、教育的な支援についても気になる。

ボランティア団体の要請については、市民の持っている力を活用して、行政任せにならない共生の社会を作るしくみを考えるのが大事。そのような内容を組み込んでもらえると安心。

⇒（回答）

事務局：その部分は各論で具体的に考えていく。家族の支援については、「生活の支援」のところに組み込んでいこうと考えている。また、仲間づくりについては、「啓発・交流活動の充実」の各論で出てくることになる。

会長：例えば、基本方針のところで「障がい者のニーズ」（基本方針(1)生活の支援の2行目）というところを「障がい者と家族のニーズ」という風に入れるとか、(4)啓発・交流活動の充実のところで「ボランティア団体などの活動を周知・促進し」（下から2行目）などのようにちょっと入るといいのではと思う。

委員：障がいのある方が外で活動する時間と、家で家族が世話をしている時間を比べると家にいる時間の方が長い。障がい者の家族が困ったときに窓口に助けを求めて行けばいいのだろうと思っていたが、現実的にはなかなか行けなかった。窓口には相談に行きにくいところがある。公な相談窓口が欲しい。

委員：ネットワークこだまには12~3人の登録者がいるが、古賀市規模であればもっと当事者はいるはず。パンフレットを持っていったら受付の一番下に置いてあった。一番下にあるような用紙は目が悪い人のところに届くわけがないと思う。

基本方針の「2、社会参加の支援」について、視覚障がいのある方が就職して3ヶ月で辞めたと

ということがあった。この3ヶ月というのはどう考えても国の支援があったから。企業は短期間の雇用でも障がい者を雇ったということができ、企業のイメージアップに利用されている。そのような矛盾を考えると、今回の計画はこのような現実を知ったうえで作ってもらいたい。

⇒ (回答)

会長：例えば、「窓口機能の充実を計る」という文言を入れるとか、就労支援の他に「就労定着」入れるということが可能性としてはあると思う。

委員：当事者に対し福祉課のほうからネットワークこだまの紹介をすることはできないか。

⇒ (回答)

事務局：個人情報があるので難しい。

委員：(2) 社会参加の支援のところ、障がい者の就労支援というところに「障害者優先調達推進法を活用し」という文言を入れたほうが良いのでは。

会長：障害者優先調達推進法とは。

⇒ (回答)

事務局：障害者優先調達推進法について説明。

委員：この法律を活用することによって、雇用が広がるということで入れることができれば良いと思う。

⇒ (回答)

事務局：優先調達法によって福岡県で約4億円の調達をしている。その中の1割程度(約4000万)は古賀市が調達しているもの。特に印刷関係があるので、古賀市としてはよく調達しており、これからより推進していきたいと考えている。

委員：福岡県の優先調達法の窓口はコロニーが開く予定になっている。障がいのある方が作った製品を買ってもらえるということは雇用の門戸も広がる。

会長：県全体の1割を古賀市が調達しているというのはどこかに宣伝できないか。

委員：率としては高いが、金額としては非常に少ない。

副会長：古賀市が努力しているところはもっとアピールしたほうが良いと思う。

委員：古賀市の社協は近隣市町村と比較して歴史があり充実している。

副会長：数値で示さないと良さが伝わりにくいし評価がしにくい。

委員：社協という団体自体がまだ市民に浸透していないなかで、古賀市では、組長会などで事業の案内をしたり、広報の工夫をしたりHPの充実などをしながらつながりを作っているところ。

会長：古賀市が障がい者にやさしい町であることを宣伝するために社協の活動等をまとめて入れてみたらグラフなどよりわかりやすい。

事務局：宣伝ということで、はたらこ〜がについて説明。古賀市独自のもので、広報などでPRしている。

会長：就労を後押しするような文言を入れてもらえるといい。

副会長：基本計画の冊子は誰のために作るのか。配布先はどこなのか。一番見て欲しいのは市民の方だと考えると、もっと見やすく文字を大きくするなど工夫をした方が良いのではと思う。

⇒ (回答)

事務局：業者にある程度のレイアウトを作ってもらう予定のため、見やすくなると思う。

副会長：第2期の計画を見ると高齢者に対しては字が小さすぎると思う。

委員：文字をゴシック体にしてはどうか。

委員：プランを点字にしたら高額になる。業者も少ない。

委員：私たちはルイの会に頼んでいる。

会長：広報や HP を活用して、わかりやすく市民や当事者に理解をしてもらうために作るということ  
いいか。

⇒ (回答)

事務局：当然 HP には掲載しなければならないと思う。

会長：次回の資料も事前にもらえるということでもいいか。

⇒ (回答)

事務局：はい。

## 7. その他

次回の開催は1月22日（木）19：00を予定。